

解答・解説

凡例および注意点

① = 大問番号 ❶ = 段落番号 ❶ = 文番号

解答部

_____ = 正解部分
() = 省略可能
[] = 直前の語句との入れ換え可能

解説部

☐ = 主語 ☑ = 動詞 ☒ = 目的語 ☓ = 副詞 など
「 」 = 訳（基本は直訳）、あるいは強調
() = 省略可能、あるいは補足・別表現
【語句】 = 該当箇所の重要語句
[|] = 発音。左側が発音記号。右側が目安となるカタカナ表記で、ゴシック体はアクセント
⇒ = 派生語・反意語 など
☒ = 例文。暗唱できるようになることを強くお勧めする
【文法】 = 該当箇所の重要文法事項

日本語訳部

文構造にできるだけ忠実に、自然な日本語を心がけた

重要語句確認部

☑ = 名詞 ☑ = 動詞 ☒ = 形容詞 ☓ = 副詞 など
□ = チェック欄
[] = 発音記号
「 」 = 意味

解答

1

- (1) 十代のころに退屈を経験したが、他にすることもなかったので作曲を始めた。
- (2) ① (1個の) プラスチック製カップの用途をできるだけ多く考えること。
② 電話番号を単に読むだけの作業。
- (3) gap
- (4) 何かをしたい気持ちはとても強いのだが、勧められるものは何もしたくない状態。
- (5) (エ)

解説

凡例： 1 = 段落番号、3 = 文番号

- (1) 本文内容の一部を説明する記述問題。該当部分を正しく把握し、自然な日本語で「簡潔に」説明する。
下線部(1)に Again「再び」があるので、この下線部より「以前」に「退屈が大きな動機付けとなった」状況を具体的かつ簡潔に説明すればよい。該当するのは 1 ① ~ 2 the musician and actress Kate Nash explained that the boredom she experienced as a teenager led her to start writing her music. “I wrote a lot because there wasn’t much else going on in my life.”「～ミュージシャンで女優のケイト・ナッシュは、十代のころに経験した退屈が、彼女を音楽を書くことへと導いたと述べた。『私はたくさん(曲を)書きました。なぜなら、生活の中で進行していることがあまりなかったから。』」の部分。無生物主語の表現が含まれているが、これを直訳すると日本語として不自然になる。内容を正しく理解、咀嚼してから、正しい日本語で過不足なく解答すること。なお、記述問題においては、採点者がいることを意識して、丁寧な字で解答すること。字の上手下手にかかわらず、採点者への敬意を忘れてはならない。
- (2) 本文内容の一部を説明する記述問題。
下線部(2) one 2013 study「2013年の1つの研究」の具体的な内容は、下線部を含む文以降、同段落最後から2文目までに示されている(最後の文は研究から導き出された考え方のまとめ)。3 ③ ~ 6 British psychologist Sandi Mann divided subjects into two groups and gave one the boring task of copying numbers from a phone book. Each group was then given a creative task of coming up with as many uses as possible for a plastic cup. The ‘bored’ group outperformed the other. Another set of students, who had the even

duller task of simply reading the phone numbers, did even better. 「イギリスの心理学者サンディ・マン氏は、対象を2つの集団に分け、片方に電話帳から番号を書き写すという退屈な作業を与えた。各集団はそれから、プラスチック製カップのできるだけ多くの用途を思い浮かべるという創造的な作業を与えられた。その「退屈していた」集団は、もう一方の集団よりも優れていた。ほかの一部の学生は、電話番号を単に読むというずっとつまらない作業をしていたのだが、ずっと優れていた。」 まず①の「共通しておこなわせた作業」は、「各集団はそれから、プラスチック製カップのできるだけ多くの用途を思い浮かべるという創造的な作業を与えられた。」に該当する。次に②の「最も創造性が高いと判断されたグループは最初にどのような作業をしたグループか」は、「他の一部の学生は、電話番号を単に読むというずっとつまらない作業をしていたのだが、ずっと優れていた。」の部分に該当する。これらを正しい日本語で過不足なくまとめて説明する。

- (3) 空所補充の記述問題。設問の条件(続く2つの段落の中にある1語)に合致し、文脈が自然につながるものを探す。なお、「語句」とは「(単)語」と「句」を合わせたことばで、「句」とは複数の語からなる、〈主語+動詞〉構造を中心としない意味のまとまりのことである(〈主語+動詞〉構造を中心とする意味のまとまりのことは「節」という)。
空欄(A)を含む文は、3 最終文 The thinking is that boredom gives us a push to explore creative outlets to fill the (A) our brain is noticing. 「その考えは、退屈は私たちに、創造的な出口を探検する後押しを与えるということである/私たちの脳が気づきつつある(A)を埋めるために。」という内容。空所は、文法的には、直前の定冠詞 the から名詞が入ることがわかり、その

名詞は続く our brain is noticing によって後置修飾されていることがわかる。なお、省略されている関係代名詞は、notice「気づく」の目的語となる先行詞 the (A) を後置修飾するので目的格。内容的には、「私たちの脳が気づきつつある(A)を埋める」ためのもので、「そのために退屈は創造的な出口を探検する後押しをする」ということ。直訳だとわかりづらいが、要するに「退屈によって創造的なことがしなくなる、そして脳がその(A)を埋めようとする」ということである。この内容は、最終段落 3 “When you feel bored, ~, you’re motivated to look for something else. In that gap there’s a real chance to discover something new. 『あなたが退屈を感じるとき、~、あなたは何か別のものを探さよう動機づけられます。そのギャップの中に、何か新しいものを発見する本当のチャンスがあります。』」に一致する。したがって、空所に入る語は gap「ギャップ、隔たり」。fill the gap「ギャップを埋める」はよく使われる熟語なので、そのまま覚えておくといよい。

- (4) 本文内容の一部を説明する記述問題。
下線部(3) a ‘desired bind’は「望まれた縛り」と直訳できるが、引用符で囲まれているので、筆者が意図する特別な意味がこのあとで説明されると予想できる。4 4 That’s when someone is kind of stuck because they desperately want to do something but they don’t want to do anything that’s on offer. 『それは、だれかがちょっと行き詰まってしまっているときのことです/なぜなら、必死に何かをしたいと思っていますが、勧められるものは何もしたくないからです。』(※次の文は Secondly で始まるので、a ‘desired bind’を含む The first thing で始まる文とは無関係)。つまり、下線部の名詞は、when で始まる補語となる名詞(節)と内容的にイコールになるので、この部分をまとめればよい。なお、someone は単数形だが、これを代名詞で表すときは複数形の they で受ける。これは、someone「だれか」が不特定であり、男性か女性かがわからないときは they で受けるのが一般的になっているからである。
- (5) 空所補充の選択問題。選択肢を実際に代入し、文脈が正しく通るかどうかを確認すること。
空欄(B)を含む文を段落冒頭から見てみる。Boredom is not in itself creative, argues Eastwood, ~. It’s (B) that is important. “When you feel bored, because it’s an aversive and uncomfortable state, you’re motivated to look for something else. In that gap there’s a real chance to discover something new. What matters to me and what am I passionate about? I think that looking can be a source of creativity.” 「退屈はそれ自身が創造的なわけではないとイーストウッド氏は主張する、~。大切なのは(B)である。『あなたが退屈を感じるとき、それは嫌悪を感じる不快な状態なので、人は何か別のものを探さよう突き動かされます。その隔たりの中に、何か新しいものを発見する本当のチャンスがあります。自分にとって何が重要なだろう。そして自分は何に夢中なのだろう。そのとらえ方が創造性の源泉になるのだと私は考えます。』」以上

の文脈から、空所を含む文は、引用符で囲まれた部分の内容を端的に述べるものと判断できる。文法的には、空所を含む文は強調構文〈It is ~ that ...〉「…なのは~である」で、関係詞 that 以降が~の部分の後置修飾していると解釈できる。強調構文においては、~の部分に名詞がくるとは限らないが、この場合は that に動詞 is が続くので、that は主格の関係代名詞と解釈できる。つまり空所は、「退屈に関する重要なもの」を表す名詞が入ると判断できる。引用符部分の内容をわかりやすく言うと、「人は退屈を不快に感じるので、何か別のものを探し始めようとする。その不快な現状と、別の何か新しいものとの間にあるギャップを埋めることに本当のチャンスがある。自分にとって大切なもの、自分が熱中できるものを自問することが、創造性のみなものになりうる。」ということ。以上を踏まえて選択肢を代入する。「大切なのは、(ア) what you hope「あなたが何を望むか/あなたが望むもの」、(イ) what you are「あなたは何か/あなたの人となり」、(ウ) what it is about「それ(退屈)が何についてのものか」、(エ) what it leads to「それ(退屈)が何に導くか/それが導くもの(先)」から、正解は(エ)と判断する。なお、これらは4つの選択肢はすべて名詞節だが、間接疑問(各訳の前半)ととらえてもよいし、先行詞を含む関係代名詞 what が導く名詞節(同じく後半)ととらえてもよい(ウ)は関係代名詞では訳しづらいので、間接疑問の訳のみ示した)。